



神宮前だより

全力で運動する楽しさや喜び

校長 齋藤 等

笑顔、真顔、泣き顔……そして、満足顔。先日実施した運動会において、子供たちは、いつもの学校生活の中で見せる姿とは少し違った様々な豊かな表情を見せてくれました。

運動の面白さは、ルールの中で競い合い、勝つために努力することですが、思い切り大きな声を出し、全力を出す楽しさや喜びを感じながら、率直に感情表現できることにもあると思います。

短距離走で一位になった子供の得意顔。音楽に合わせて楽しそうに踊っているときの満面の笑み。組体操で相手とタイミングを合わせて技に取り組んでいるときの緊張感のある真剣な顔。騎馬戦で帽子を取られてしまったときの残念そうな顔。閉会式の得点発表で、優勝を告げられた白組の歓喜の表情。負けた紅組の悔しそうな顔……どの子供にも、一日の運動会の中で、様々な表情が見られました。

もちろんこれは、それまでの練習を真剣に取り組んできたからこそ、その感情だと思えます。例えば、組体操の練習では、前日に行った

最後のリハーサルでも、なかなか全員そろって技がピタッと決まるという状態ではなく、心配そうな表情の子供が多かったのですが、当日は、みんながいつも以上に集中して気持ちを合わせ、見事に決めてくれました。最後は、会場から大きな拍手をもらえ、努力した成果が実り、上手にできた満足感で一杯の顔が印象的でした。

また、「声」の大きさも立派でした。特に、応援合戦の「ゴーゴー」の歌では、みんなが夢中になって、自分の最大限の声を出していたと思います。これも練習中の話になりますが、五月の音楽朝会で、六年生だけで全校にお手本を見せてくれたことがありました。朝一番にもかかわらず、六年生は全力を出し切って歌いきり、その姿は、全校児童へのお手本として、最高にかっこよく見えました。

六年生になると、恥ずかしがって、大きな声を出すのをためらう子供がいる場合も多いのですが、そうした様子が微塵も見られず、全員が真剣に歌っている姿は大変立派でした。私はこの様子を見て、今年の運動会はきっとよい運動会になるだろうと確信しました。

運動会は、競技として、速さや強さ、上手さなどを競い合い、もちろん勝つことが、当日の一番の目標です。しかし、学校行事としては、こうしたスポーツの競技性を追求するだけでなく、そこに至る練習において、自分自身で考えながら、より速く、強く、上手く、美しくなるように工夫したり、努力したりすることが重要なねらいです。また、仲間と教え合ったり、共に励まし合ったりすることや、「自分たちの運動会」という意識をもって運営していくために、高学年を中心に、放送、審判、準備などの係活動に取り組んだり、応援合戦で全校をリードして盛りあげたりすることも大切な経験です。そうした意味において、今年の運動会は大成功だったと感じています（指導面、運営面などでは、もっとよいものを目指していく反省点はございます）。

当日、最終的には僅差で白組が勝ちましたし、個人的にも、短距離走で一位になった子供がいれば、ビリになってしまった子供もいます。学校では、負けて悔しいという思いも含め、運動会を通して学んだ様々な経験をこれからの学校や日々の生活に生かせるようにしたいと考えております。

保護者・地域の皆様には、観覧や昼食などの際にご不便をおかけいたしました。優先席のご活用を含め譲り合ってください、ありがとうございます。また、PTAスタッフの係や片付けのご協力などにも感謝申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

六月の生活指導

傘の使い方

運動会も終わり、子供たちはほつと一息ついて、落ち着いて学習に取り組んでいるところです。

さて、六月は梅雨の時期で、傘を使うことが多くなります。傘を持っていないと見通しが悪くなったり、人に当たりやすくなったりしますので、安全に気を付けて登下校するように注意しています。

また、傘立てにはきちんとたたんで入れること、持ってきた日に持ち帰ること、（学校の傘立ては一人一本分の傘を入れるようになっているので、持つて帰るのを忘れると、次の傘を入れる場所がありません。そして名前表示がないところに入れてしまい、記名がない傘は誰のものかわからなくなることもあります。）借りた傘を返す時は家で乾かして晴れた日に持つてくること（雨の日に借りた傘をさして登校し、濡れた傘をそのまま返す場所に入れていることもあります。）などがあります。しかしまだまだ定着していません。

よい習慣が身につくように、ご家庭でも声かけをして頂きますようお願い致します。

（生活指導部）